

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・今月に入り、消費税増税後の消費の落ち込みは徐々に回復し、地元客の来街者が例年並みに増加しつつあるほか、外国人観光客も増加している。また、中旬に行われた農業機械器具の展示会には20万人以上の人出があり、飲食、お土産、交通、宿泊の売上が増加した。道内他都市からの観光客の入込も例年以上となっており、装飾品及び衣料品の売上も増加した。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・若干ではあるが、消費税増税による販売不振からの改善がみられ、満足するほどではないが販売量も増加している。北海道観光は7月後半から日本人の個人型観光が増えており、活気が出てきている。また、外国人観光客は好調を維持しており、外国人観光客の買上分が業績を押し上げている。ただし、外国人観光客が訪問しないような地域はまだまだ苦戦している。
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・今月は突然暑くなった日が1週間ほど続き、それ以外は雨の日ばかりの異常気象であったが、売上は前年比100.4%と前年とほぼ変わらなかった。
		一般小売店 〔酒〕（経営 者）	お客様の様子	・取引先の経営者と話をしても、前向きな発言が増えてきており、明るさがみられるようになってきている。なかには、店舗を拡張したいという希望も持つ経営者もみられるなど、今までにはなかったような傾向が出てきている。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・消費税増税直後の4月よりは回復傾向にある。ただし、客単価が上昇してきている一方で、購買客数は回復が遅れている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・3か月前の4月は駆け込み需要の反動減で大きく売上が落ち込んだ月であったため、4月との比較では販売量は2割強伸びている。ただし、前年との比較では前年比87%と苦戦している。
		スーパー（店 長）	それ以外	・消費税増税の影響が大きい。食品などは回復しつつあるが、衣料品や住宅用品はまだ増税以前の状態に戻っていない。徐々に上向いてはいるものの、増税後の消費に関しては、必要な物を必要な量しか買わない傾向がみられるなど、慎重でシビアな様子が続いている。
		コンビニ（オー ナー）	来客数の動き	・全体的に中国からの観光客が増えており、その分が販売量に上乘せされている。
		衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・夏が来たことで少しは客の気分が上向いている。若干ではあるが、景気が良くなっている。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・消費税増税後の反動減がまだ続いている。家電については、目新しい商品がなく、単価の高い売れ筋商品も乏しいことから、全体的には苦戦しているが、客の様子からは不景気感が感じられない。
		その他専門店 〔医薬品〕（経 営者）	単価の動き	・消費税増税の影響はまだ続いているが、やや回復傾向に転じている。ただし、7月は北海道としては気温の高い日が続いており、購買層の中高年にとっては店から足が遠のく原因となっている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・国内からの社員旅行、グループ旅行が堅調である。
		観光型ホテル （役員）	単価の動き	・個人客が増加していることで全体の宿泊単価が上昇傾向にある。同じく、外国人観光客についても需要がおう盛なことから、宿泊単価が上昇傾向にある。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・前年は天候が良くなかったことや参議院選挙の影響でビジネス客、観光客ともに低調であったが、今年は悪化要因があまりなかったため、前年を上回っている。
		観光名所（従業 員）	来客数の動き	・7月の来客数は前年比106%となっている。前月は天候不順の影響でこの2年間で初めて前年を下回ったが、今月はまた増加に転じている。
		美容室（経営 者）	お客様の様子	・売上が前年を5%程度上回って推移している。関連商材も若干動きが良くなっている。
	変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動がまだ続いており、特に高額品の売上が厳しい状況にある。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・消費税増税に対する客のアレルギーは薄らいできたが、客の財布のひもは固いままである。

商店街（代表者）	お客様の様子	・7月はバーゲン時期であるが、スタート当初から客の購買率があまり高くない状況にある。中旬以降は気温の上昇にともなって、多少は買物するようになってきているが、最初の値下げ額で買う客はほとんどみられず、客単価もかなり低下している。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は前と変わらないが、気分的には多少上向いている。
商店街（代表者）	来客数の動き	・当地は遠方の観光地ということもあり、ガソリンの価格高の影響で来客数が少なくなっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・夏物のセールが始まり、来客数が回復傾向にあるが、前年との比較では前年比97%という結果であった。外国人客による買上は前年比111%となっており、春先の減少から復調している。苦戦した夏物の定価品はセール対応となったが、売上は前年比93%で推移しており、買上率も上がりきっていない。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・セール以降の売上が前年をやや上回っている。ただし、来客数は減少している。
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・7月に入っても消費税増税の影響から抜け出せていない。買上率や客単価は上がっているものの、来客数の減少幅が予想以上となっており、厳しい状況に変わりはない。
百貨店（役員）	販売量の動き	・6月に続き7月も数字の伸びがみられない。消費税分がレジで加算されることに客が慣れてくると同時に、店頭価格では買えないことを客が認知するようになり、生活防衛に走っている。政府は、景気が順調に回復していると発表しているが、地方経済についてきちんと語っているとは到底思えない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ガソリン価格の高騰や土日祝の高速道路料金の割引率の低下などにより、週末の来客数が減少傾向にある。
スーパー（役員）	来客数の動き	・7月に入っても来客数が減少し、客単価が上昇している状況に変化がみられず、5～6月と同様の状況で推移している。一部では消費税増税前の駆け込み需要の反動がいまだに続いている商材もみられ、増税が消費者にとって大きな負担となっている様子がうかがえる。
スーパー（役員）	販売量の動き	・肉や魚を中心に商品単価が上がっているため、見かけ上は売上が増えているが、景気が良くなり、消費が活発になっている様子はみられない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・気温が低い日が続いているため、飲料水、ビール、アイスなどの夏型商材の売上が大幅に減少している。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・豪華客船が毎週寄港していることで、観光客が街を散策している。また、夏のお祭りを控えて、各企業体からの踊り浴衣の追加発注が前年よりも増加したほか、染織作家が手がける高額着物が多数売れたことで、7月の売上は良かった。ただし、新作浴衣については、大型店の影響により、流通形態が変わってきているためか、売上が減少している。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・前年と比べて来客数が減少している。台所回りの家電は前年並みの売上があったが、薄型テレビはいまだ回復がみられず、冷房機器は前年を下回った。全体の売上は前年実績を下回った。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が低水準で推移している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・個人的には前月と販売量が変わらなかったが、全体としては前月よりも販売量がやや減少している。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注量が一向上向いてこない。これまでは受注残があったため、販売量の落ち込みを最小限にすることができていたが、受注残も少なくなってきたおり、これからが大変である。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・4月以降、当店も含めた同業者の来客数が前年比80%台で推移している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、状況に変化はみられない。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上は前年並みであった。予約状況は悪くないが、特に夜のフリー客が少ない。客層は新規客が増えているものの、なじみ客が減っている。アジア人観光客が利用する飲食店は予約が多いようだが、当店は昼夜ともあまり利用されていない。客単価が低下しているため、材料費が高くなりすぎないように注意している。	
	一般レストラン (スタッフ)	単価の動き	・7月は客単価が前年比103%とアップしており、2か月連続で増加している。	
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・先行受注状況が前年より悪い。ただ、消費税増税の影響というよりも、受注環境が停滞している雰囲気がある。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・7月は中央競馬の開催により、3か月前と比べて売上が約10%伸びている。ただし、前年実績と比べると、約2%下がっているため、全体としては変わらない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・7月の実績は前年並みであった。わずかながらの増減はあるものの、状況はほとんど変わらない。	
	パチンコ店(役員)	単価の動き	・原油価格の値上がりや落ち着いたものの、電気料金や一部の食料品価格の値上がりが必至なため、全体としては変わらない。	
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税後の動きをみると、5月に一旦盛り返したものの、6月以降は再び影響が出ており、売上は減少傾向で推移している。	
	住宅販売会社 (役員)	単価の動き	・分譲マンションの販売価格が高くなり過ぎており、購入する意思はあっても購入できない客が増えてきている。	
やや悪くなっている	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・7月のセール期間が1日から始まるものと16日から始まるものの2段階に分かれたこともあり、衣料品が大変苦戦している。婦人服、紳士服関連の売上は前年比90%台前半となっている。下旬に入ってから、中元の売上も前年比90%台と非常に厳しくなっている。	
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・消費税増税後、たばこや酒といった免許品の売上が大幅に減少している。特にビールの落ち込みが激しい。低価格品への移行も進んでいるが、販売量も減少している。	
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・気温の変動で状況は変わるが、気温の影響をあまり受けない商材の回復が遅れている。	
	家電量販店(地区統括)	販売量の動き	・異常気象という天候要因もあり、ここ最近ではエアコンの需要が増加してきているが、依然として、消費税増税前の駆け込み需要の反動が影響している。	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・大きな売上となるはずの週末に勢いがみられない。ランチタイムは家族連れでまずまずであるが、ディナータイムの入込が悪く、来客数は前年を10%下回った。ただし、客単価はメニュー変更の効果もあり、前年を上回っている。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・旅行申込件数が減少している。	
	タクシー運転手	それ以外	・7月は天候も良く、暑い日が多かったため、タクシーの利用が前年よりも減っている。また、人手不足で乗務員が集まらないため、タクシーの稼働が悪くなっており、会社の売上は前年を下回った。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・景気動向としては、緩やかな上向き傾向にあると言われているが、当地の周りの状況を見ると、さまざまな消費品目で値上げに対する懸念材料があるためか、消費者の警戒心が強く、営業収入が若干減少している。	
	通信会社(企画担当)	単価の動き	・店頭での値引き合戦が、表には見えない形で再び加熱しており、競合他社との低価格競争に陥っている。	
悪くなっている	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・前年と比較して輸送量が著しく減少している。	
企業動向関連	良くなっている	建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・全体としては良くなっているものの、原油価格の高騰や消費税増税による影響、労務者不足などの理由により、建築材料費や労務費などの建設単価が上昇を続けていることが懸念される。
(北海道)	やや良くなっている	通信業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・これまで価格に敏感であった顧客が、最近は納期や品質を優先させるようになり、価格に対する感度が緩やかになってきている。これらは景気的好循環の表れである。

	金融業（企画担当）	それ以外	・消費税増税の影響は、高額商品を除いてほぼ解消している。建設関連は住宅着工が落ち込んでいるが、公共工事は高水準が続いている。観光は外国人観光客が大幅に増加している。一方、建設資材の価格上昇や人手不足で設備投資を見送る企業もみられる。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減は収まり、現在は実需ベースで推移している。主力商品の受注量、販売額に大きな変化もみられず、景況感は変わらない。	
変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に変化はみられない。	
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量、販売単価とも、3か月前と比べて特に変化はみられない。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・想定していたよりも消費税増税前の駆け込み需要の反動が長引いている。しかし、駆け込み需要の規模が非常に大きかったことによる反作用であり、来月には収束するとみられる。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注、民間工事の引き合いとも、引き続きみられるものの、配置すべき職員に余力がない。また、協力会社も人員不足であり、人手の確保が難しい状況にある。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品の輸送は順調である。一方、飲料品は本州が猛暑に見舞われているものの、突然の気象変化の影響もあり、全体的には動きが鈍い。生乳は4～6月の生産量が前年から3.1%の減少と落ち込んでいる。消費税増税の影響はあまり感じられない。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・建築関連は注文が継続しているものの、港に荷主在庫が滞留している傾向が強く、入荷が膨らんでおり、物流の繁忙期とは言えない状況にある。	
	司法書士	取引先の様子	・一見、景気が回復しているようにみられるが、不動産取引や建物の建築においては実質的な変動がなく、景気回復の実感が薄い。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産売買などの動きが悪い。景気の回復が感じられないため、住宅の新築が少なく、土地の売買も少ない。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・最近取引先において、安い物を購入しようとする姿勢が非常に目立っている。	
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	
雇用関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.4%増加し、53か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から10.4%増加し、53か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いており、企業の採用意欲が高くなっている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の相談件数や当社への登録件数が増えている。同様に、人材紹介の求人も派遣のオーダーも増えているが、双方のスキルのミスマッチにより、成約に至らないケースが増えている。ただ、求人が増えている現状から、企業の景況感は好転している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・人材不足によるリピーター求人の依頼は相変わらず多い。また、飲食業、販売業などでは、若年層の新規開業による求人依頼が若干だが増えてきている。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・札幌のみならず地方都市の求人件数も頭打ち感がある。しかしながら、前年比の動きをみると高止まりの状態である。消費税増税前の駆け込み需要もみられなかった地方都市では人手不足が深刻だが、一方であきらめ感も出てきている。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・6月の新規求人数は前年を2.3%下回った。新規求職者数は前年を2.8%上回った。月間有効求人倍率は0.79倍となり、前年の0.72倍を0.07ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は46.1%と相変わらず低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。	
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月から5月にかけての期間をピークに求人数が低下している。

	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・消費税増税や仕入コストの増加が影響しているのかは分からないが、季節的な要因を考慮しても、求人数が減ってきている。募集してもなかなか人が集まらないため、募集側も疲弊していると感じる場面がある。
	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年を若干下回った。なかでも、飲食、小売が振るわなかった。売上に占めるウエイトの大きい派遣、運輸運送も減少した。
	職業安定所（職 員）	採用者数の動き	・6月の就職件数が前年を下回っており、4か月連続で減少している。
悪く なっている	-	-	-